

研究主題

自ら学び、共に学び合う児童の育成



川口市立原町小学校

あ い さ つ



川口市教育委員会
教育長 茂呂 修平

川口市立原町小学校におかれましては、令和元・2年度川口市教育委員会の「学力向上」に関する研究委嘱を受け、研究主題に「自ら学び、共に学び合う児童の育成」を掲げ、国語科・算数科・社会科を中心に研究実践に取り組みました。ここに、研究の成果が研究紀要としてまとめられましたことに、心より敬意を表します。

本校では、学力向上のための指導方略として、「協同的学びの成立要件」に着目し、「聴き合う関係」「真正の学び」「ジャンプの問い」という3つの柱をもとに、学習の質の高まりについて研究されました。具体的な実践として「聴き合う関係」では、協同的に学習できる場の設定を重要視し、児童同士の関わりを生む話型の活用やねらいを明確にした交流の場の設定に取り組みました。「真正の学び」では、学習指導要領における各教科の見方・考え方にに基づき、身に付けさせたい力を明確にした単元計画の作成を行い、指導と評価の一体化を大切にしながら授業実践に取り組みました。「ジャンプの問い」では、児童の実態に即しながら、自らの力で問題解決できる問い、深い学びにつながる問いを教職員で共有し、児童の変容へつながる効果的な手立てとして成果を導くことができました。また、研究主題に迫るためには学級づくりが重要であると捉え、「仲間と関わり合い、学び合いながら進んで課題を解決する学級」の実現に向けて、学級のすがたの基準となる段階表や学級づくりプランを作成し、教職員が共通認識のもと、研究実践に取り組んでこられました。

本校の研究実践は、学習指導要領で示す各教科の「見方・考え方」が働く授業づくりに基づくものでもあります。また、「主体的・対話的で深い学び」を目指した学力向上の研究推進に多くの示唆を与えてくれるものであり、川口の教育の向上・発展に大きく寄与するものであると確信しております。結びに、本研究を力強く推進されました加田 明校長先生をはじめ教職員の皆様のご努力に心より感謝の意を表すとともに、今後なお一層の研究の発展に向けてご尽力くださることをご期待申し上げ、挨拶といたします。

あ い さ つ



川口市立原町小学校
校長 加田 明

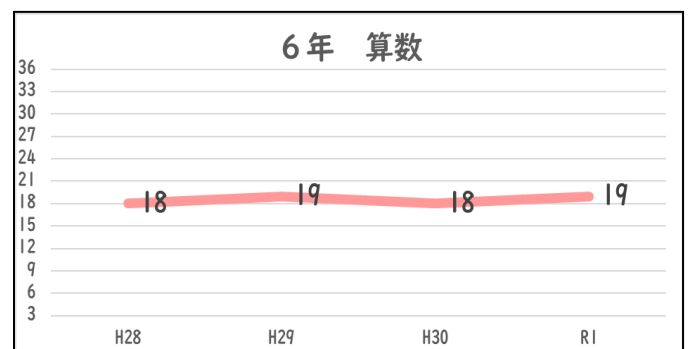
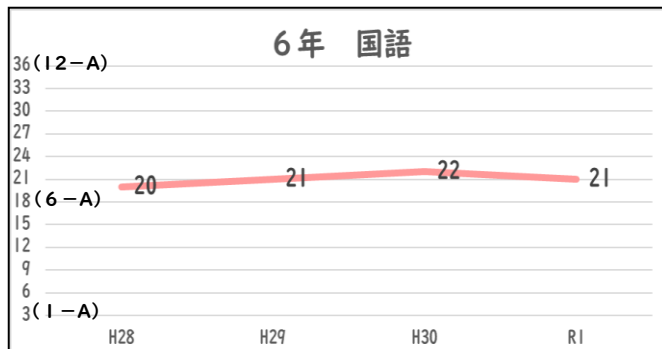
令和元年・2年度川口市教育委員会の「学力向上に関する研究」の委嘱を受け「自ら学び、共に学び合う児童の育成」を研究主題とし全教科で研究を進めてまいりました。学習指導要領にありますように、これからの学校は、一人一人の児童が自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められています。そのためには「すべての子供の学びを保障する」と同時に「学び合いによる協同的な学びを実現する」ことが必要です。

本校では目指す学校像を「すべての子供の学びを保障する、笑顔あふれる原町小学校～子供たちの『自律』『尊重』『創造』する力を育む学校づくり～」とし、誰一人取り残すことなく、すべての子供が安心して楽しく学ぶことのできる環境の構築を目指しています。そして、子供同士が互いに「尊重」し合い対等な関係のなかで違いを認め合う人間関係づくりを行うこと、あらかじめ期待された通りの答えを出すのではなく、探究的に自ら問いを立てて、多様な人々と協働しながらその解決を目指していくこと、独創的な発想で新たな価値を作り上げる「創造力」を培うことを目指しています。本研究も研究のための研究ではなく「目指す学校像」実現のための学校経営の根幹として捉え、教職員一同意識を高め取り組んでいます。この度の研究発表会を新たなスタートラインとして今後も研究を継続してまいります。

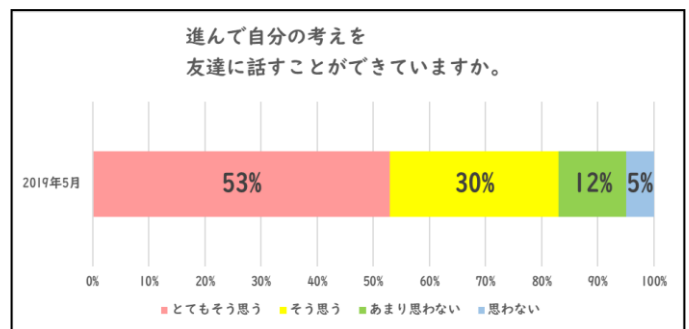
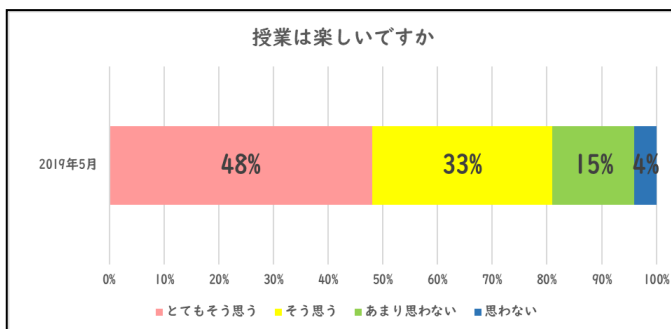
結びに、本研究の推進にあたりきめ細やかなご指導をいただいた、学びの共同体研究会スーパーバイザー 根岸康雄様、川口市教育委員会教育長 茂呂修平様、川口市教育局指導課の皆様にご心より感謝と御礼を申し上げ、挨拶といたします。

研究前の児童の実態

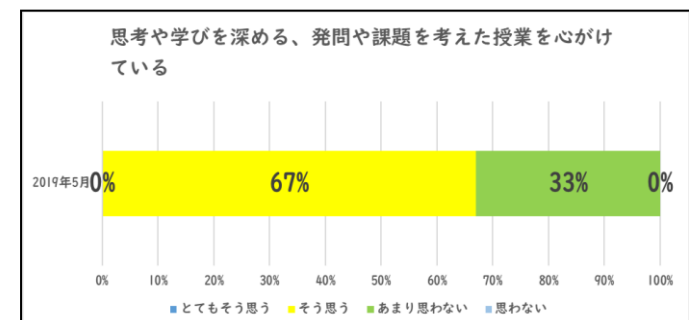
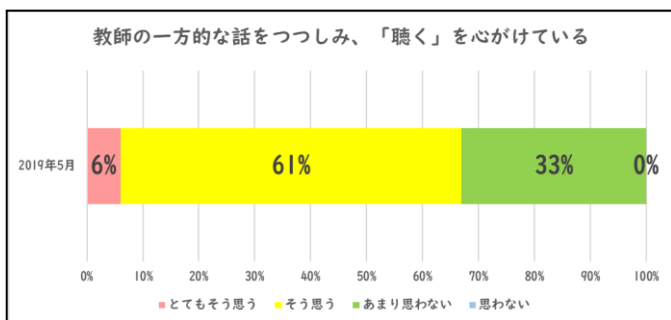
＜R 1 までの埼玉県学習・学力状況調査の結果から＞



＜第1回学習アンケート（R 1. 5月）の結果から＞



＜第1回教師アンケート（R 1. 5月）の結果から＞



＜各種実態調査からの考察のまとめ＞

テスト等に現れる「見える学力」は埼玉県平均と比較して同じか高い水準を維持しているが、自ら課題を見つけ（主体的）、他者と関わり合いながら（対話的）、思考を深め、課題を解決する（深い学び）力が低い。また、教師も児童の思考を引き出す授業づくりの意識が低い。

そこで、児童の非認知能力（見えない学力）を高めることがテスト等に現れる「見える学力」の向上につながるのではないかと仮説のもと、研究主題を「自ら学び、共に学び合う児童の育成」とし、研究をスタートした。

令和3年度 研究全体構想図

学校教育目標 「なかよく かしこく たくましく」

目指す学校像 すべての子供の学びを保障する、笑顔あふれる原町小学校
～子供たちの「自律」「尊重」「創造」する力を育む学校づくり～

教育基本法、学校教育法
学習指導要領
第3期埼玉県教育振興基本計画
埼玉県教育委員会指導の重点・努力点
川口市教育委員会指導の方向

目指す児童像
仲間と関わり合い、学び合いながら進んで課題を解決する子

児童の実態
・基礎・基本が身に付いている
・児童が多い
・主体的に学ぶ姿勢に課題が見られる。

研究主題
自ら学び、共に学び合う児童の育成

本校における「学び」の定義

- 自ら「学ぶ」…興味や関心をもち、仲間と関わり合いながら全員が進んで課題を解決しようとする学び
- 共に「学び合う」…仲間と関わる場面で互いの考えを認め合い、双方向の対話を通して自己の考えを広げ深める学び

〈仮説1〉

興味や関心をもって解決したくなる課題を設定することができれば、全員が進んで課題に向かうことができるであろう。

〈仮説2〉

互いの考えを認め合う授業を展開することができれば、多様な考えに気付き、自己の考えを広げたり深めたりすることができるであろう。

〈学力部〉

- 学力向上プラン共通理解授業の実施
- 授業力の向上(一人一授業の実施・教材研究の充実)
- 国語タイム、算数タイムの充実
- 学習大会の実施
- 1分間スピーチの取組
- 学力調査結果の分析・考察
- 自主学習の取組と充実

〈授業研究部〉

- 原町授業スタイルの作成
- 教材研究の時間の活用・調整
- 指導案の検討
- 研究授業及び研究協議会の運営
- 学力向上プランの改善

〈調査研究部〉

- 児童及び教員の意識調査の作成・集計・分析・考察
- 学力調査結果の分析・考察
- 研究授業の写真・ビデオ撮影
- 掲示物の作成と充実

『学びの共同体の理論を踏まえた本校の実践』

学びの共同体の学校は、子どもたちが学び育ち合う学校であり、教師たちも教育の専門家として学び育ち合う学校であり、さらに保護者や市民も学校の改革に協力し参加して学び育ち合う学校である。

学びの共同体の学校改革は、「教室における協同的学び」「職員室における教師の学びの共同体と同僚性の構築」「保護者や市民が改革に参加する学習参加」三つの活動システムで構成されている。

(佐藤学 『学校を改革する』 岩波ブックレット 2012年より)

これらの理念のもと、協同的学びを中心に据えた授業改善について研究を進めてきた。

協同的学びの成立要件について

○聴き合う関係

わからない児童が「ここどうするの?」と訊くことから始まる学び合いの関係。相手のわからないこと、伝えたいことに寄りそって協同的に学習できる人間関係。

○真正の学び

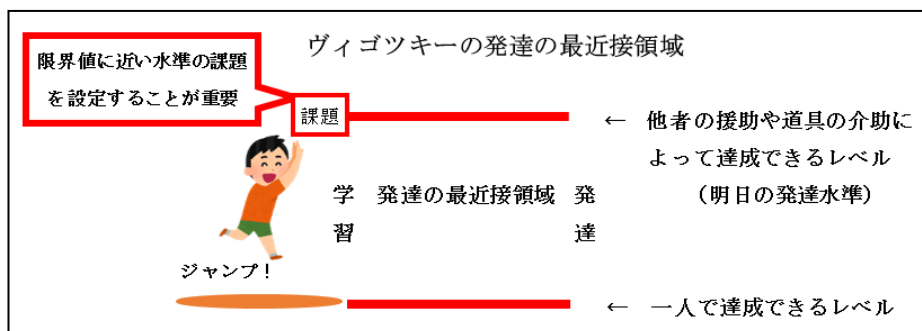
教科の本質に即した学びであり、本校では新学習指導要領における「各教科の見方・考え方を働かせた学び」と捉える。

○ジャンプの問い（学習課題及び発問や問題）

ヴィゴツキーの発達の最近接領域(※)の理論に基づく、児童の実態に即した可能な限り高いレベルの問題や発問。深い学びにつながる問題や発問。本校では、学びの共同体でいう「ジャンプの課題」を「ジャンプの問い（学習課題及び発問や問題）」と定義している。

※ヴィゴツキーの発達の最近接領域について

「児童が自分一人で解決できる課題」と「他者のアドバイスや物による補助があれば達成できる課題」の間に課題を設定することが児童の学習効果を高める。



他者のアドバイス（友達や先生との関わり）と物による補助（教材や教具）がある授業を協同的な学びとして実践していく。

具体的な授業実践

仮説 1

興味や関心をもって解決したくなる課題を設定することができれば、全員が進んで課題に向かうことができるであろう。

身近な生活からの課題設定



第3学年 算数 単元名「分数を使った大きさの表し方を調べよう」

分数で表されたかさの足し算について、児童の実生活と結びつきのある課題から問題を設定し、児童が興味をもって課題に取り組めるようにした。

既習事項を基にした課題設定



第4学年 算数 単元名「角の大きさ」

既習事項とズレのある問いや、既習事項を組み合わせで解決できるジャンプの問いを設定し、課題に対する興味関心を高めるようにした。

単元構成の工夫



第2学年 国語 単元名「だいじなことに気づけて読み、分かったことを知らせよう」

「1年生にあそびを紹介する」という活動を設定し、意欲的に取り組めるようにするとともに、身に付けた力を生かして児童が主体的に取り組めるような単元構成を工夫した。

児童の思考を深める発問



第1学年 国語 単元名「おもいうかべながら、ようよう」

児童のつぶやきや発言を取り上げ、物語の叙述に基づいた切り返しや補助発問を設定することで、児童の思考を促し、意欲的に課題に取り組めるようにした。

仮説 2

互いの考えを認め合う授業を展開することができれば、多様な考えに気づき、自己の考えを広げたり深めたりすることができるであろう。

児童同士の関わりを生む話型の活用

②ちがう

- ・〇〇さんとすちがって～です。
- ・かんがえたところは同じだけれど、りゆうがちがいます。
- ・〇〇さんのかんがえとはちがうけれど、そのかんがえもいいなあと思いました。

④分からない

- ・もうーど言ってください。
 - ・せつめいが分らなかったのでもうーど教えてください。
 - ・～までは分かったけれど、ここからが分かりません。
- だから、おしえて!!!

③にている

- ・〇〇さんとにている～です。
- ・〇〇さんと、～のかんがえがにています。
- ・〇〇さんと、りゆうがにている～です。

- ・分からないから見せて。
- ・なんて書いたの。
- ↓ 聞かれたら・・・ ↓
- ・どこが分からないの？
- ・どこで困っているの？
- ・ここまで分かった？
- ・ここまでは分かっているね。

第2学年 国語 単元名「お話を読んで、しょうかいしよう」

聴き合う関係をつくるために児童同士の関わり合いを促す話型を提示し、活用できるようにした。話型を活用しながら自分と友達の考えを比べながら聴き、受け入れ合うことができるようにした。

児童の発言をつなぐ授業展開の工夫



第4学年 国語 単元名「気持ちの変化を読み、考えたことを伝え合おう」

登場人物の行動や叙述から生じた児童の「ぎもん」を基に発問や課題を設定し、児童同士の発言をつなぐ授業展開を工夫し、互いの考えを認め合い、多様な考えに気づくことができるようにした。

視点を絞った交流



第6学年 算数 単元名「円の面積の求め方を考えよう」

自分とは違った友達の解決策を知ることによって自己の考えを広げられるようにした。円の面積を求める式を立式し、その根拠に視点を絞って話し合うことで、自己の考えを深められるようにした。

学習過程と教師のケアの工夫

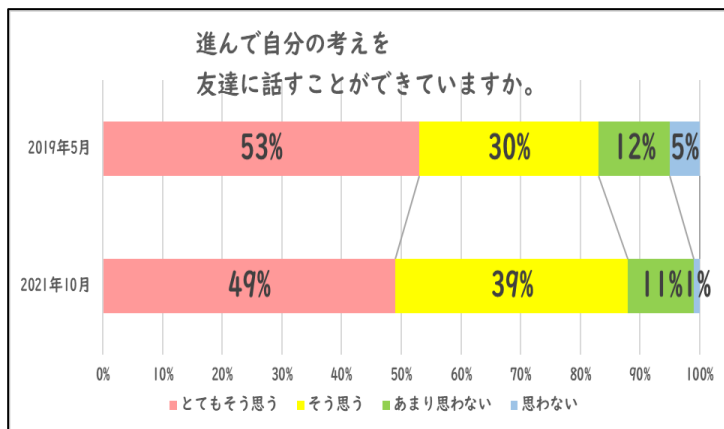
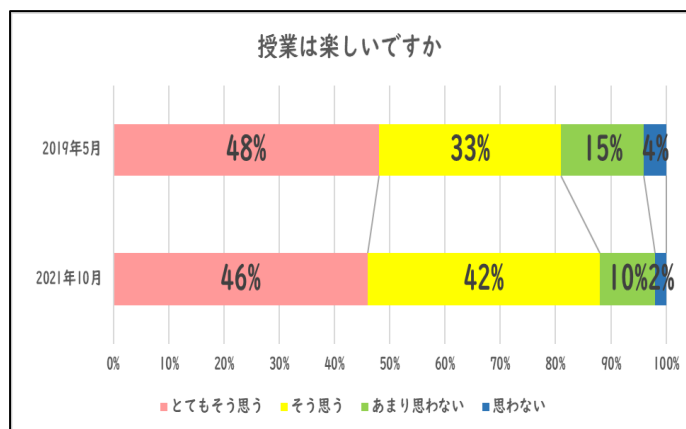


第5学年 社会 単元名「これからの工業生産とわたしたち」

学び合いを促す学習過程を設定し、児童の学習の様子をつぶさに観察し、学び合いが停滞している児童やグループに適切な声掛けを行った。学び合いを活性化させることで自己の考えを深められるようにした。

児童の変容と研究の成果と課題

(1) 学習アンケートの変容と抽出児童の変容



○抽出児童 T

令和元年度（1年）の様子

- ・隣の子に話しかけられてもノートを隠したり、反応せずに一人で考えたりすることが多かった。



令和3年度（3年）の様子

- ・アンケートにおいてすべての項目に肯定的な回答。授業中も積極的に友達と関わり、学ぶ様子が見られるようになった。

○抽出児童 M

令和元年度（2年）の様子

- ・友達の話を聞こうという姿は見られるものの、集中が続かず、自分の考えを話すこともできない。
- ・わからないと一人で考えこみ、止まってしまう。



令和3年度（4年）の様子

- ・アンケートの回答は否定的な回答が多いものの、授業中は、わからないときにペアにノートを見せてもらったり、教えてもらったりと友達と関わるようになった。

(2) 学びの様子の変容

令和元年度

令和3年度



聴き合う関係の変容

基本的な机の配置をコの字型へ



子供たち同士の顔が見え、互いの様子がわかる密着したコの字型にすることで、子供たち同士の考えがつながり、対話が充実。

低学年はペア学習、中・高学年はペアを基盤としたグループ学習を中心に



- ・ペアと常につながっている安心感が生まれ、いつでも自然と相談し合える。
- ・友達と考えを交流したり、分からないときは相談したりして、ジャンプの問いに対しても、友達と協力して諦めずに取り組む。
- ・多くの児童が「わからない。ここを教えて。」と言えるようになり、聞かれた児童は相手が納得するまで説明しようとし、支え合う関係が成立。

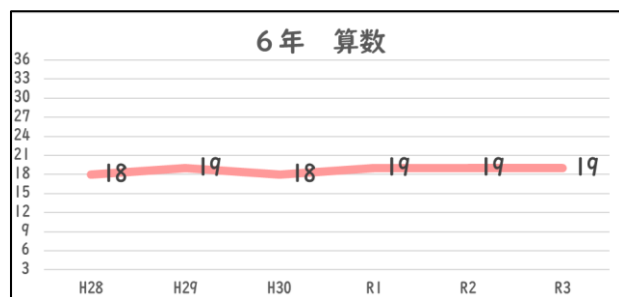
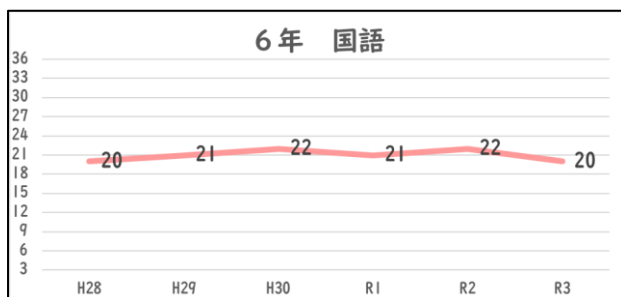
(3) 子供たちの記述から

○学習アンケート「授業は楽しいですか。」に対する肯定的な回答… 88%

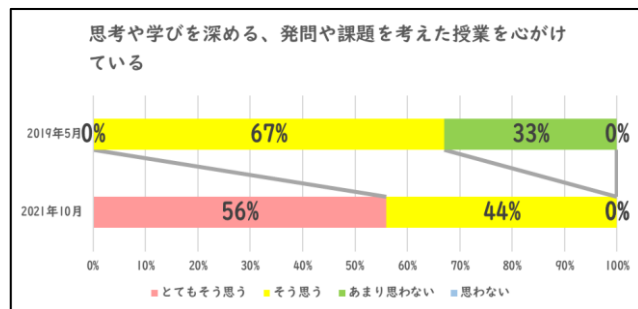
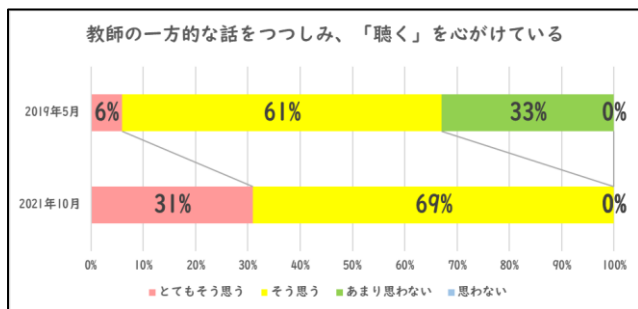
⇒どんな時に授業が楽しいと思いますか。

- ・友だちと話しあいをしたり、友だちの考えたことを聞いたりするのが楽しいです。(2年女子)
- ・先生やお友だちに分からない時間聞くといい、つむやさしく教えてくれるからです。(3年女子)
- ・友達に教えて相手がなっとくしてくれたときや、むずかしい問題が理解できたときが楽しいです。(5年女子)
- ・友達と話し合っ、わからなかったことがわかる時に楽しいと感じます。(6年女子)
- ・みなと話し合っ新しいアイデアが生まれるしわからないときはみななが教えてくれるからとても嬉し。(6年男子)

(5) 埼玉県学力学習状況調査の結果から



(6) 教師アンケートの結果から



成果と課題

成果

- 子供たち同士で考えをつなげようとする意識をもつことができるようになった。
- 聴き合う関係が構築されたことで、友達に自分の考えを話したり、「わからないから教えて」と言ったりできる、安心して学習に取り組める人間関係が形成されてきた。
- 教師自身が一方的に話すのではなく、子供たち同士をつなごうと意識して授業を展開するようになり、教師の意識が変わった。
- 子供たち一人一人をよく見て学級の実態に合わせた授業づくりができるようになった。

課題

- 児童の変容が学力テスト等の「見える学力」にまだ結びついていない。
- 児童が授業時間内に最大限に思考を働かせることができるよう、学習形態や発問を精選することが必要である。
- より質の高いジャンプの問いを研究することが必要である。

あとかき

本校は、川口市教育委員会より、令和元・2年度「学力向上に関する研究」の研究委嘱をいただき、研究主題を「自ら学び、共に学び合う児童の育成」とし、全教科領域において研究を進めてまいりました。

この3年間教職員が一丸となって授業改善を図った結果、多くの成果を上げることができました。しかし、まだ、課題も残され、研究途上であります。今後も課題解決のため、ご指導をいただくことを念頭に、さらなる研究を進めてまいります。

最後になりましたが、本校の研究に対し、真摯にご指導をくださった、学びの共同体研究会スーパーバイザー根岸康雄様、川口市教育委員会の皆様に心より感謝の意を表し、おわりのことばとさせていただきます。

教頭 亀山 義光

ご指導いただいた先生

学びの共同体研究会スーパーバイザー
川口市教育局学校教育部次長兼指導課長
川口市教育局学校教育部指導課主幹兼指導係長
川口市教育局学校教育部指導課主幹兼教育研究所副所長
川口市教育局学校教育部指導課指導主事
川口市教育局学校教育部指導課指導主事
川口市教育局学校教育部指導課指導主事
川口市教育局学校教育部指導課指導主事

根岸 康雄 様
中川 猛 様
丸山 陽一 様
中村 義郎 様
新井 朋子 様
向井 剛生 様
村上 裕一 様
川島 慎也 様

研究に携わった教職員

<令和3年度>

校長 加田 明
○山口みどり
水島 弘貴
八木下慎吾
乗田 裕史
高橋りか子
荻上真由美

教頭 亀山 義光
新藤 美樹
藤下真由美
秋本 風柚
菊谷 海帆
成田 光
榊原 郁美

教務主任 倉本 庸
船崎 能克
一條 昭代
◎江口 竜太
小尾 仁美
山室 祐子
鈴木 千尋

◎研究主任 ○各部部长

○野原 祐子
赤荻 正之
大槻 梨奈
尾上 杏菜
岡野佳壽子

<令和2年度>

長谷川令子

福島 秀人

<令和元年度>

小南紗央里
矢島恵美子

岡村 史織
武藤 晶子

広瀬 綾香

池田 菜緒